

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地						
JAPANサッカーカレッジ	平成14年1月9日	中村 勉	〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地						
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士					
文化・教養	文化・教養専門課程	サッカーコーチ研究科	—	平成23年文部科学省告示第170号					
学科の目的	4年間の現場実習やインターンシップを通して、サッカー指導と審判の基礎を身につける。また、実際にプロの現場で学ぶことにより卒業後に即戦力となる人材を育成する。								
認定年月日	平成26年3月31日								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は単位 数	講義	演習	実習	実験			
4 年	昼間	5104時間	1456時間	0時間	2976時間	0時間			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
40人	34人	0人	3人	2人	5人				
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留)				
長期休み	■夏期休業:8月1日～8月31日 ■冬期休業:12月20日～1月7日 ■春期休業:3月15日～4月5日			卒業・進級 条件	■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置(担任以外の教員による面談等) 保護者宛に活動報告書を送付(保護者との連携) 個別対応(スクールカウンセラーによるカウンセリング)			課外活動	■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加 ■サークル活動: 無				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) サッカー業界(全国のJリーグクラブや地域クラブの指導者) ■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターンシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。 ■卒業者数 : 3 人 ■就職希望者数 : 3 人 ■就職者数 : 3 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報) ■資格・検定名 種別 受験者数 合格者数 日本サッカー協会公認C級コーチライセンス ③ 3人 3人 ■種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 令和4年4月1日時点において、在学者32名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者32名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由			■中退率 0.0 %					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 ご家庭の経済状況から学費の準備が厳しい場合に、全国的に多く用いられている日本学生支援機構の奨学金から、NSGカレッジリーグ独自の制度まで、豊富な奨学金制度が利用可能。(日本学生支援機構 奨学金制度(第一種・第二種)・NSGカレッジリーグ無利子奨学制度(新卒者・新卒者以外)・NSGカレッジリーグ母子・父子家庭奨学制度・NSGカレッジリーグ災害奨学融資制度・地方自治体の奨学金制度・国の教育ローン・NSGカレッジリーグ提携教育ローン・NSGカレッジリーグ学費奨学融資・その他公的な奨学金・民間団体の奨学金)http://mydreams.jp/scholarship ■専門実践教育訓練給付:給付対象外								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無								
当該学科のホームページURL	https://cupsnet.com/about/course/coach								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ コーチ・審判専攻科と(株)アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ サッカーコーチ研究科が(株)アルビレックス新潟と連携し、外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が拡がるとともに、新潟県のみならず日本全体のサッカー選手育成システムを牽引していくことができるような関係を構築する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会で協議された事項および企業からの要請について、JAPANサッカーカレッジ教務部で再度協議し、より実践的かつ専門的な職業教育の実現に努める。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	①
小林 弘幸	株式会社アルビレックス新潟	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ顧問	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ校長	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
小関 高嗣	JAPANサッカーカレッジ事務局長	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
須崎 政幸	JAPANサッカーカレッジ学科主任	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回(8月・2月)開催予定

(開催日時)

第1回 令和4年8月20日 15:00～16:00

第2回 令和5年2月8日 15:00～16:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会にて、より良い指導者を育成するために実習時間(期間)を増加することはできないかとの意見があり、次年度カリキュラムで変更する予定。企業より要望があったフィードバックの時間数増加については今年度より取り入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1年次: サッカースクール業務に携わることで、サッカー業界における仕事のイメージを掴む。

2年次: プロコーチによる指導を観て指導能力向上の一助とする。また職場環境を肌で感じる。

3年次: 指導実践を経験し、プロコーチによる直接指導から学ぶ。また現場での具体的な仕事内容を知る。

4年次: スタッフの一員として全体の業務を把握し様々な経験を積む。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

(株)アルビレックス新潟が運営するサッカースクールで実習を行う。実際に(株)アルビレックス新潟のプロコーチによるサッカー指導を間近で見て学ぶとともに、実際にプロコーチの指導の下指導実習を行いアドバイス・評価をいただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アルビレックス新潟スクールインターンシップ	株式会社アルビレックス新潟にインターンシップし、クラブのアカデミーにおける指導法を学ぶほか一社会人としての業務について学ぶ。	(株)アルビレックス新潟

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月(前期)・9月(後期)に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とともに講習会内容を授業や実習等で活用す

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「JFA公認FAチーフアシスタント研修」(連携企業等: 一般社団法人新潟県サッカー協会)

期間: 令和5年2月25日(土)・26日(日) 対象: サッカーコーチ研究科教員1名

内容: JFAから優れた講師を招聘し日本や世界のトレンドを知ることができ、新潟県サッカー協会技術委員会から本県の現状についての報告やディスカッションの中から、本県サッカーの発展に対し情報を共有できる機会にする。日本サッカーの発展に寄与することと、新潟県サッカーの発信も目的とする。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 「最高の職場で豊かな人生を送るために知っておきたい5つの捉え方」研修(連携企業等: 株式会社アビリティトレーニング)

期間: 令和5年3月22日(水) 対象: サッカーコーチ研究科教員3名

内容: 新年度を迎えるにあたり、改めて学び直すきっかけに。クラス運営や学生指導について有益な気づきが得られる研修。授業だけでなく即座の判断が求められる日頃の学生指導においても有効活用する。講師は木下晴弘氏。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「JFA公認C級コーチ養成講習会」(連携企業等: 株式会社アルビレックス新潟)

期間: (前期)令和5年5月~7月、(後期)令和5年9月~11月 対象: サッカーコーチ研究科教員1名

内容: サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: クラス運営・退学抑止・学生指導に関する研修会(連携企業等: 株式会社アビリティトレーニング)

期間: 令和6年2月 対象: サッカーコーチ研究科教員3名

内容: 昨年度に引き続き株式会社アビリティトレーニングの木下晴弘先生を招聘し、新年度を迎える前の教職員のモチベーション向上、指導スキル向上を目指した研修会を開催。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1. 教育理念・目標
(2)学校運営	2. 学校運営
(3)教育活動	3. 教育活動
(4)学修成果	4. 学修成果
(5)学生支援	5. 学生支援
(6)教育環境	6. 教育環境
(7)学生の受入れ募集	7. 学生の受入れ募集
(8)財務	8. 財務
(9)法令等の遵守	9. 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	10. 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	11. 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に関係の深い9名の評価委員に評価していただいている。委員より、「実習を通してコミュニケーション能力を向上する必要がある」とのご意見を頂いたため、次年度のカリキュラムにコミュニケーション能力に繋がる授業内容・授業時間を増やすとともに担当教員の選定などにも役立てている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	①
寺川 能人	(株)アルビレックス新潟	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	顧問
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	教務部長
小関 高嗣	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	事務局長
小川 修平	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
諏訪 雄大	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
三ヶ月 宏	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
須崎 政幸	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
老田 聰孔	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

9月中旬に学校ホームページ上で公開(URL: https://www.cupsnet.com/pdf/r5_01.pdf)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	2. 各学科等の教育
(3)教職員	3. 教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	7. 学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	8. 学校の財務
(9)学校評価	9. 学校評価
(10)国際連携の状況	10. 国際連携の状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会のほかに別途会議を開催し文書にて(株)アルビレックス新潟へ報告している。

また学校ホームページ上でも公開している。公開時期は学校関係者評価委員会終了後の9月中旬。

(URL: https://www.cupsnet.com/pdf/r5_01gh.pdf)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程サッカーコーチ研究科) 令和5年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
○			英会話	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを目指す。	1通	64	4	○		○	○			
○			コミュニケーションスキル	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1通	32	2	○		○	○		○	
○			実践行動学	動機付けプログラムである実践行動学のテキストを用い、自身の夢・目標の実現に向け、現在の立ち位置を確認する。	1・2前	32	2	○		○	○		○	
○			就職実務	自己分析を含め就職とは何かを考えさせるとともに動機づけを行う。就職活動のマナー、面接、スピーチ対策等を実施し就職活動への準備を目的とする。	2通	32	2	○		○	○		○	
○			社会人常識マナー	社会人になった際に必要となってくる一般常識を学び、教養を身につけると共に、サービス接遇について学ぶ。	1前	16	1	○		○	○		○	
○			OA I (Word・Excel)	Microsoft ExcelおよびMicrosoft Wordを使用し、表計算の基礎および文章入力から編集の基礎を学ぶ。	1通	64	4			○	○	○		
○			OA II (Power Point)	Microsoft Power Pointを使用し、様々なツールを学びながら効果的なプレゼンテーションおおこなう技術を身につける。	2前	16	1			○	○		○	
○			ホームルーム	集団行動の重要性を認識し、時間厳守、規律遵守、協調性、奉仕の心を養うことを目的とする。	1・2通	64	4	○		○	○	○		
○			栄養学	スポーツ選手として必要となる栄養の基礎を理解し、選手生活の中で活かせるように知識を身につける。	2通	32	2	○		○	○		○	
○			トレーナー概論	トレーナーの果たすべき役割、業務を理解する。	1通	32	2	○		○	○		○	
○			スポーツ概論	アスレティックトレーナーの果たすべき役割、業務を理解する。	1通	32	2	○		○	○		○	

(文化・教養専門課程サッカーコーチ研究科) 令和5年度														
分類			授業科目名	授業科目概要				配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法	場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技	校内							
○			救急法	AEDの使用法や、応急処置の方法を学ぶとともに、日本赤十字社認定赤十字救急法救急員の資格を取得する。	1通	32	2	△		○	○	○		
○			コーチング論	コーチングに必要な具体的知識やスキルを習得する。C級コーチ養成プログラムにおけるコーチングに必要なコーチング方法を学ぶ。	1～4通	256	16	○			○	○		
○			キッズリーダー	トレーニング構築、オーガナイズ設定など実際に指導実践を行い、JFA公認キッズリーダーALL取得を目指す。	1通	64	4			○	○	○		
○			ゴールキーパー授業	ゴールキーパーにおけるトレーニングの構築、オーガナイズ設定など、実際に指導実践を行う。	1通	32	2			○	○	○		
○			アナリスト論	ゲーム分析の意図を理解し、基本的な分析方法を知る。またチームの狙い、意図を読み解く。	2通	128	8	○			○	○		
○			レフェリー論	サッカー競技における競技規則の正しい解釈と適用を講義を通して学ぶ。	1～4通	512	32	○			○	○		
○			ジュニアコーチング	子どもとの関わりあいから、今後期待されるであろう年少世代への指導に必要な能力を育成する。	1・2通	32	2			○	○	○		
○			競技規則	競技規則の正しい解釈と適用を実践を通して学ぶ。審判論の授業とリンクさせ実践を通して実際の見え方などの状況を確認する。	1～4通	256	32	○			○	○		
○			実技・実践	C/B級コーチ養成講習会のテーマ、グループ戦術/チーム戦術を中心にテーマに沿って実技および指導実践を行う。	1～4通	512	32			○	○	○		
○			冬期指導実践	冬期は通常授業が少なく実習時間が確保できる。その時間を有効活用し、後期に実施した指導実践の振り返りを行う。	1～4通	128	8			○	○	○		
○			冬期特別授業	冬期は通常授業が少ないこともあり、後期授業の補助授業として振り返りおよびより深く学ぶ授業を実施する。	1～4通	128	8			○	○	○		
○			週末総合実習	週末の公式戦や練習試合においてレフェリーや帯同チームのコーチとして実習を行う。	1～4通	128	20			○	○		○	

(文化・教養専門課程サッカーコーチ研究科) 令和5年度																
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任			
○			週末審判実習	外部におけるクラブに実習参加し、指導者の指導法等について学ぶ。	1 ～ 4 通	1 0 2 4	64			○		○		○		
○			外部実習	学校外部におけるチームに帯同し、監督のアシスタントコーチとして指導の幅を広げる。	2 ～ 4 通	1 1 5 2	72			○	○			○		
○			内部実習	学校内部におけるチームに帯同し、監督のアシスタントコーチとして指導の幅を広げる。	2 ～ 4 通	5 1 2	32			○	○			○		
○			学びクラブ	生涯学習事業「学びクラブ」においてコーチの補佐として指導実習を行う。	1 ・ 2 通	1 2 8	8			○	○			○		
○			審判研修	サッカー競技における競技規則の正しい解釈と適用を研修を通して学ぶ。	1 ～ 4 通	7 6 8	32			○		○	○			
○			アルビレックス新潟スクールインターンシップ	株式会社アルビレックス新潟にインターンシップし、クラブのアカデミーにおける指導法を学ぶほか社会人としての業務について学ぶ。	1 通	64	4			○		○		○	○	
○			国内研修	国内において、クラブ等を視察し現場指導者から講義等を通して指導法等を学び研鑽を積む。	1 ・ 3 ・ 4 通	96	6	△		○		○	○			
○			海外研修	海外クラブの育成指導法等について現地指導者やクラブ関係者より直接学ぶ。また海外文化に触れ見分を深める。	2 通	32	2	△		○		○	○			
	○	○	海外インターンシップ	海外インターンシップを希望し学内選考により選抜された場合、海外インターンシップに参加する。その際学年文単位を振り替えることとする。	2 ～ 4 通	(3 9 5 2)	(2 4 7)			○		○	○			
合計				34科目	5104時間											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。		1学年の学期区分	前後期
		1学期の授業期間	16週